

第 3 3 回 学 校 評 議 員 会 会 議 録

平成 2 7 年 2 月 7 日 (土) 10:00~11:30

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 3 名 (大谷雅行 氏、宮澤田鶴子 氏、三国典昭 氏)

学 校 側 校長、教頭 (司会)、事務長、教務主任
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員 (記録)

1 校長挨拶

校長 : 今回の会議では 1 年のまとめということで、授業アンケートと学校アンケートも準備していますので、ご覧下さい。この 1 年間の本校の学校運営をふまえてどのようにしていけばよいかお話を伺いたいと思います。社会の変化が著しく、新しい職業が生まれこれまでの職業がなくなっていく世の中ですが、その中に「教師」が含まれているという研究もあるようです。このことは、これまでどおりの「従来型教師」がなくなることを意味するのではないかと考えています。生徒たちに求められる学習をどう身につけさせていくか、教師自身の在り方が問われるということです。中教審は、大学改革・高校改革・そして入試改革を一体化した改革に乗り出すこととし、すでにその動きが始まっています。この 1 年を振り返ることで、時勢を読みながら、さらに一歩進みたいと思いますので、たくさんの意見を賜りたいと思います。本日はよろしくお願い致します。

2 意見交換

教務部 : 今年度も全保護者対象の「学校評価」を行い結果を集計しました。教務部は学校全体を見通して運営していくことを重点に取り組んでいますので、評価項目が「施設設備について」「学校生活について」「家庭との連携について」「教育課程・学習指導・授業の質・宿題について」などの内容になっております。昨年度に比べ回収率が高くなっています。今回は学校評価と授業アンケートの評価方法を統一して 5 項目としました。このことから、「そう思う」という A の選択よりも「だいたいそう思う」という B の選択が増えたため、数値で表したときに点数が下がっていますが、ほぼ前年度と変わらない結果が出ています。項目の中で評価が比較的低かった項目は 8 の「本校では、生徒の悩みに対して適切な指導が行われていると思いますか」でした。これは先ほどの評価方法が変わったことも影響し、これまで A を選択していた保護者が、B に移行したためだと思われる。とはいえ今後もしっかりと取り組んでいかなければと考えています。評価が良かったのは 9 の「ねぶた制作」に関する項目と、13 の本校に「入学させて良かったか」という項目でした。「ねぶた」制作に関しては保護者からの期待が感じられますので、今後も継続できるように生徒指導部と相談しながら取り組んで参ります。13 に関しては A の割合が非常に多く、保護者の関心の高さが伺える結果となりました。引き続き保護者と協力していきたいと思っております。

学校評価のコメントには、以下のような内容のものがありました。9 の安全指導に関する意見ですが、昨今、送迎車による渋滞やトラブルが多く見受けられますので、保護者自身もこのままではいけないと感じていることが分かるものでした。意見が多かった内容に関する学校側からの回答も載せておきましたので、ご覧おき下さい。

授業アンケートの結果は全体的に高評価であるものがほとんどで、教員の教材研究への姿勢や大学に対応した指導の在り方が、生徒にも伝わっているものと考えられます。座学に関しては 2・4・7・9 の項目が、実技に関しては 3 や 8 の項目がやや低い傾向にあるので、教科全体で話し合って向上に努めていきます。

「中高連携事業の取り組み」についてです。自主的な公開授業を行っている弘前市立第二中学校へ 4 名参加しました。3 年生のテストと重なったことにより、参加した人数が少なかったのですが、次年度も引き続き参加し連携を深めていきたいと思っております。また、本校では毎年持ち回りで、主要 5 教科のうち 1 教科が公開授業を行っています。今年度は地歴公民科の公開授業・協議会・分科会が行われました。さらに、弘高発学力コン

テストを行っています。中学生のうちから、高校の授業に対する興味や高い意欲を持って、課題に挑戦して欲しいという意図で今年も実施しました。

生徒指導部： 生徒指導部では自治会を中心とした活動の運営や、部活動及び問題行動に関しての指導を行っております。今年度対応した問題に関してです。保護者からの学校への要望に関してですが、例年では送迎などについて入ることもありましたが、今年度は全くありませんでした。自転車運転中の事故に関しては、12件ありましたので防止に努めていきます。不審者の報告に関しては、今年3件ありました。いつも冬場に入ってから発生する傾向にあるようです。

生徒指導部の主な年間活動です。1学期は弘高祭の行事を中心に動いております。2学期の活動で、文芸コンクールというのがありますが、今年出された作品の中で学校の教育目標でもある「規律ある自由」にふれた作品がありました。生徒の自覚が芽生えてきたのではないかと思います。3学期は毎朝外に出て遅刻の指導や、自転車駐輪指導を行ってきました。また、保護者の送迎の注意を行ってきたことから、保護者送迎による生徒の乗り入れが減少してきました。今後は時間帯で区切って乗り入れを禁止するなどしながら、粘り強く指導していきたいと考えています。

県高総文大会の結果です。優秀賞以上または3位内入賞が4部ありました。運動部においても東北大会で優勝した生徒がいるなど好成績を残しています。ベスト8入賞も数多くあるので、更に上を目指してがんばって欲しいものです。

進路指導部： 資料は、2月2日現在の出願状況とAO入試の状況、1・2年生の進路希望状況調査、学習状況調査についてのものです。この資料に関してはご覧おき頂きまして、今日は進路の目標とそれに関する達成状況をお伝えしたいと思います。進路は4つの目標を掲げてきました。1つ目は生徒の自学自習を身に付けさせること。2つ目は様々な面において連携を図ること。3つ目は情報収集に努めること。4つ目は難関大に入学させることです。1つ目の「自学自習」に関しては、進路ホールの朝学習時において、朝日が眩しいという生徒の要望に応じてカーテンを設置したり、図書館の開館時間を増やしたり、職員室前に面談スペースを設けて質問等に来やすくしたりして、生徒の学習環境の充実に努めました。2つ目の「連携」については、学年や教務と連携し総合学習の時間に10名の講師の先生方をお呼びして、進路に関する講演を行っていただきました。3つ目の「情報収集」については、新課程入試1年目ということで、特に「理科基礎」に関する情報を収集するために、何名かの先生方に研修を受けて頂きました。その結果今回の入試に関しては大きくぶれることなくしっかり進路につながれたのではないかと思います。今後センター廃止に向けて学力評価テストになります。決して遠い未来のことではありませんので、来年度からまた情報収集に励んで参ります。最後4つ目に関してです。今年は前年度に比べると東大志望者が多数います。前年度は、新課程になる前ということで動向が読めず、手堅く国公立大学に入りたいという生徒が志望を下げたこともあります。これは他校も同じ傾向でした。また、本校には2年生は80名、1年生は103名の東北大志望者がいます。今後は難関大学に挑戦させ確実に入学させるべく、まずは教員が難関大学の研究をしっかりと行った上で、生徒にも目標を明確に立てさせていこうと思います。また、地元の大学である弘前大学を志望する生徒達に対しても、目標を達成させるためにきちんと指導していきたいと考えております。

教頭： 各分掌からの説明が終わりましたので、これから質疑応答に入ります。

評議員

宮澤田鶴子氏： 新課程になったことによる大きな影響はあったのでしょうか。生物の点数調整があったようですが。

進路指導部： 「生物」を受験した生徒は、2次試験も皆「生物」を受験する学部学科ですので、実際の出願に大きく影響はありません。

評議員

大谷雅行氏： 学校評価アンケートについてです。評価方法が変わったとのことですが、ちよくちよく変えて良いものでしょうか。

校長： 保護者と生徒に対する問い方が違う必要はないと思います。評価方法の文言を替えた

のは、A「強くそう思う」という意見がどのくらいあるのか、ということを確認にしたいという意図がありました。「だいたいこう思う」というものは多いものです。ある事柄に対して意志を持ってはっきりと示して欲しいと思い、評価方法を替えました。特にAとDの比率が大事だと考えています。

評議員

大谷雅行氏： 本来、評価方法は簡単に動かすものではありません。内容が変わってしまうからです。また、アンケートの中には、実施する側の意図が見え透いていたり、自己満足に終わってしまっているものもあります。お話を伺って、適切なものがはっきりと分かるようにすることは良いことだろうと思いました。

あと1点、ツイッターに関してです。情報リテラシーの問題が小中学校で取りざたされています。噂や悪口の書き込みがいじめになる例がありますが、弘前高校はどうでしょうか。

生徒指導： 他校に比べると、本校は非常に少ないです。何か問題があっても、すぐに生徒が相談してくるのですぐに対応しています。

評議員

大谷雅行氏： インターネットが浸透して生活の一部になっている昨今ですが、果たしてそれが確立されているのでしょうか。大人の中にもこういった動向をどのように読み解くかを戸惑っている人もいます。社会全体の問題だと思います。それをどう有効に活用するか、どのような点に気がつかないかなければならないのか、使用にあたって生徒達には繰り返し基本をきちんと教えていく必要性を感じています。基本的な指導をお願いします。

教頭： 10年前までは「学校裏サイト」というのがありもっとひどい状況でした。何十人という生徒が対象になりました。今は警察の監視により全て削除されています。しかし、同じグループ内の人しか見ることができないラインは難しいです。県教委も常に監視していますが、ツイッターは見えるところでの書き込みなので発見できますが、ラインは発見が困難なようです。

評議員

大谷雅行氏： こういったものは社会的状況にも左右されるものです。少なくなったのは先生方の努力もあると思いますが、また他の事情により出てくることもあります。引き続き注意喚起をお願いします。

校長： 本校では重々注意しているようですので今後とも継続します。

評議員

三國典昭氏： 私自身「いじめ」という表現が好きではありません。高校生にもなれば、立派な「人権侵害」にあたります。「いじめ」という言葉では軽く考えてしまうと考えています。

アンケートに関して「4」も低いですね。また、教職員の自己評価の「共通認識をもって取り組んでいるか」について、半部分が「そう思わない」にしています。生徒指導は情報の共有がとても大事です。先生方には共通認識をもって取り組んで頂きたいです。

校長： 「8」よりも「4」が低い結果です。これはその項目が求められていることを示しています。今年1人1人という目標を掲げたのも、こういう意図がありました。先生方がどのような意識でいるのか、学校はどこに向かっているのか。皆が同じベクトルに向かって行かなくてはと考えております。

評議員

三國典昭氏： 体罰のアンケート結果はどうだったのでしょうか。

教頭： 今年は何件でした。生徒達からは書き込みも全くない状態で、アンケート用紙が提出されました。

評議員

大谷雅行氏： めまぐるしく答申が変わっています。新しい人物像に向けて高校教育・評価など一体的なものが求められていますが、表面的な変化に右往左往する必要はないと思います。考えて判断して表現することは今までしてきたことです。このことを教育の基盤としてとらえて、表面的なことにあまり流されないでいただきたい。教育はそんなに内容が次々と変わるものではありませんので、自信を持ってよいと思います。

評議員

宮澤田鶴子氏： 受験やテストで生徒達は一喜一憂しています。保護者もそんな子ども達に対して言

葉がけをしています、同じ事でもやはり先生方が言うより安心するようです。こまめに声がけをして頂きたいと思います。また同様に、先生方の言葉によって不安定にもなるようす。声がけをする際には、よく考慮して下さい。

今日のように刊行物を拝見すると、学年によって部数にばらつきがあるのが気になります。親としては、情報が多いと嬉しいし安心するものです。こういったものは、学年が決めているのでしょうか、先生方によって違うのですか。

校長 : お知らせ等は先生方にもできれば出して欲しいと伝えています。ホームページにも、活動の写真を載せており、生徒達の状況を伝えるように工夫しておりますのでご覧下さい。

評議員

三國典昭氏 : クラスが削減されることについてですが、どの学校でもそうですがこうなると生徒のやる気もモチベーションも低くなるように思われます。先生方にも同じ事が言えるのではないのでしょうか。学級減について、県に発信していく必要があると思います。

校長 : 第4次計画が進められており、その対象校がクラス減や閉校となっています。個人的にはどの学校も同じ規模である必要はないと考えています。弘前高校は地域の拠点校として、規模が大きい方が良いのではないかと思います、会議でもそのように伝えてきたところです。特に弘前市は子どもの減少が多いので、市全体として考えていかなければいけません。

教頭 : 貴重なご意見をありがとうございました。ここで平成26年度の学校評価の結果報告書をご覧頂きたいと思います。(3)の重点目標に向けて取り組んだ結果を、以下の(8)に教員によって出された自己評価の数値を出しております。4段階評価のうち3.5以上をAとしています。

目標の1に関しては、平均3.6を越え高い数値になっておりました。目標の2に関しては平均3.7を越え、教員が達成感を実感しているものと思われます。目標の3に関しては、平均が3.4で少々下回っています。弘前高校は地域の拠点校であり、県の代表校であるという自負を持ち、他の機関と絆作りを行ってきた認識はあります。しかし、広く誤解のないような情報発信を行えたかという点に関しては少し足りないと感じており、以下の結果となっています。

以上の結果に関して、評議員の皆様方に意見を賜り、(9)の欄に載せさせて頂きたいと思ひます。ご意見をお願い致します。

評議員

大谷雅行氏 : 数値がそれぞれ満点の評価ではないところから、現実面での苦しさが垣間見られ、納得できる結果ではないかと思ひます。目標の3に関しても、どのように社会の中で役立っているのかという意識をもたれていることが分かり、理解できる評価だと思ひます。

評議員

宮澤田鶴子氏 : 様々な先生方が報告なされていると思ひますが、ここをこうしたら良いというようなコメントはないのでしょうか。継続も大事だと思ひますが、より良く改革するためには意見を出し合うことが必要だと思ひます。

評議員

三國典昭氏 : 数値から見えてくることも大事な事だと思ひますが、1人1人の先生方の対応は違うものと思ひます。平均値に満足せず、向上心をもって頑張ってもらいたいと思ひます。

教頭 : 以上をもちまして第33回の学校評議員会を終了致します。弘前高校のことで気づいたことがあればいつでも学校にお知らせください。本日はご来校頂きありがとうございました。

終了

11:15